

「タテ」でつながる教育

0. はじめに

題名で記した「タテ」とは幼稚園・保育園から大学院までの流れのことで、最近その「タテ」のつながりを重視した教育改革が各地で行われている。例えば、中高一貫校の導入や高大連携活動が挙げられる。

私自身、高校3年生に高大連携、そして今夏に小大連携に参加して感じたのは、「これらの取り組みは今後の学校教育に不可欠なものになるだろう」ということだった。そこで、今回は大学を軸とした小大・中大・高大の各連携を取り上げ、学校と大学が連携すること（以下「学大連携」という）にいったいどのような意味があるのか、また現状はどうなっているのか、そして今後どのように発展していくのかについて今勉強会で考察したいと思う。

加えて、勉強会の最後に、参加していただいた方々には小中高時代を振り返って、どのような場面で大学（大学生）が関わることが望ましいかを感想と共に述べていただこうと思う。

1. 学大連携の事例〔資料1〕参照

- ・小大連携…佛教大学の小大連携プロジェクト
- ・中大連携…追手門学院大学のTS派遣
- ・高大連携…関西大学の高大連携

2. これまでの学大連携

- ・学大連携の現状

①実施状況

小大・中大連携の全体の実施状況については不明

高大連携の全体の実施状況については〔資料2〕を参照

②実施内容

学習支援、進学支援、学生ボランティア、学校教員の研修、
学校教員による学生の教育、連携協議会

- ・学大連携の背景

①教育改革の一環

②学校や大学を取り巻く環境の変化

③学校や大学自身の変化

3. 学大連携の役割

- ・理論と実践の架け橋
- ・閉鎖的な学大から開かれた学大へ
- ・双方の自律性や専門性を高める
- ・生徒や学生にとって多様な学びを生み出す

4. 学大連携の課題

- ・評価 ①事業運営についての評価 ②事業内容についての評価
③事業結果についての評価 ④参加者についての評価
- ・運営 ①組織体制の整備 ②経費の分担
- ・学校と大学の癒着

5. 学大連携の今後.

- ・学大連携の定義

すなわち学校と大学とのパートナーシップとは「学校と大学との双方にとって利益ある目標の達成を目指して諸資源を開発し、これらを活用し、そして蓄積していくために、組織的な協働を対等な立場において促進していく連携活動である」。(中留武昭 1994, p307)

- ・連携ネットワークの拡大と強化

『ステップ1・特定の学校と大学の個別的な結びつきによる提携』

『ステップ2・教育委員会と大学が協定を結ぶことによる連携』

『ステップ3・教育委員会と大学側の連携組織が協定を結ぶことによる連携』

『ステップ4・大学側の連携組織が拡充・強化され、教育委員会を含めた連携のための組織となる』

(勝野頼彦 2004, p168~173) *勝野氏の考えを元に勉強会用に改編した

6. 終わりに

狭義の「タテ」と広義の「タテ」、そして新たなコミュニティーの創造

[今回協力いただいた方々]

追手門学院大学 リエゾンオフィス 小柴靖夫 オフィス長

佛教大学 教育学部 教育学科 黒田恭史助教授

【参考文献・引用文献】

- ・勝野頼彦『高大連携とは何か』学事出版、2004年
- ・K,A.シロトニック・」.1,グッドラッド著・中留武昭監訳『学校と大学のパートナーシップ』玉川大学出版部、1994年
- ・友成真一『「現場」でつながる！地域と大学』東洋経済新報社、2004年

[参考インターネット資料・引用インターネット資料] 2005年10月3日確認済み

- ・追手門学院大学リエゾンオフィス
(<http://www.otemon.ac.jp/guide/0108shakairenkei.htm>)
- ・関西大学高大連携推進事務室 (<http://www.kansai-u.ac.jp/koudai/index.html>)
- ・中央教育審議会『初等中等教育と高等教育との接続改善について（答申）』、1999年
(http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/12/chuuou/toushin/991201.htm)
- ・佛教大学教育学部小大連携プログラム (<http://www.bukkyo-u.ac.jp/kyoiku/>)
- ・文部科学省『高等学校教育の改革に関する推進状況 平成16年度版』、2004年
(http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kaikaku/2004/index.htm)

〔資料1〕表1 関西大学の高大連携の内容

(<http://www.kansai-u.ac.jp/koudai/html/02program.html> より引用)

A 地域密着型活動	
学外実施型	大学生による学校の課外活動や地域の文化・リクリエーション活動への支援 大学生等による情報リテラシー教育等の指導 高校に限定せず、小・中学校への教育活動の支援
学内実施型	1日体験入部（大学のクラブ活動への体験入部）の実施
B Kan-Dai 15（フィフティーン）セミナー	
学内実施型	大学にて開講している講義に高校生を受け入れる企画。 土曜日または平日5限（16:20～17:50）、6限（18:00～19:30）に開講している講義に高校生を受け入れる。
C 教員研修	
学内実施型	小・中・高等学校の教員対象プログラム等を実施する。
D Kan-Dai 3（スリー）セミナー	
学外実施型	3～5回完結型のプログラムを企画し、実施する。
学内実施型	夏季休業中もしくは土曜日に各学問分野からなる3～5回程度の講座を開講する。
E 学校インターンシッププログラム	
学外実施型	実社会における職業体験として、高等学校等で教育現場を体験する学習機会を大学生（陰性を含む）に提供する。
F Kan-Dai 1（ワン）セミナー	
学外実施型	高等学校からの依頼を受け、講師を派遣し、50分～90分の講義を実施する。
G 関大体験セミナー	
学外実施型	実施本学の施設である高岳館や飛鳥文化研究所等のセミナーハウスでの宿泊を伴う体験入学を実施する。
学内実施型	オープンキャンパス等（入試部企画）で実施する各施設見学や相談コーナー等の体験型の企画と合わせ、ミニ講義を実施する。

〔資料2〕 佛教大学の小大連携プロジェクト



表1 平成17年度「学校実践プログラム」

担当教員	プログラム	実践校（児童数/名）
遠富 洋二	国語教室の創造	川岡東小学校 (554)、祥豊小学校 (394)、百々小学校 (590)
小林 隆	社会科授業の共同開発	松尾小学校 (815)、嵯峨小学校 (611)
黒田 聡史 / 西之園晴夫	算数デジタルコンテンツの開発・実践	室町小学校 (317)、音羽小学校 (343)
西村 隆司	楽しく・わかる・できる図画工作	石田小学校 (253)
西岡 正子	縦割り集団活動の創造	待風小学校 (496)
原 清治	イジメなくし隊	松尾小学校 (815)
後藤 直 / 山崎 高哉	大学を拠点とした地域教育の創造	楽只小学校 (68)
中村 義行	特別支援教育	楽只小学校 (68)
橋本 憲尚	幼児教育	みつば幼稚園 (92)

図2 平成16年度から17年度へのプログラムの補充



〈表1〉 大学等における学修を単位認定している高校数の推移

平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年
22	49	117	184	261	(324)

〈表2〉 大学の科目等履修生や聴講生、公開講座等を活用している高校数の推移

平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年
15	68	113	455	414	(496)

〈表3〉 大学教員による高校での学校紹介や講義等を実施している高校数の推移

平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年
254	997	1,230	1,424	1,654	(1876)